

第64回(平成25年度第5回)番組審議会議事録

開催日時：平成26年1月20日(月)午前10時00分～11時20分

会 場：西宮市職員会館 第1中会議室

1. 出席者の状況
- 委員総数：7名
出席委員：4名

放送事業者側出席者

代表取締役社長：1名
ディレクター：1名
統括部主事：1名
西宮市広報課：1名
取締役：1名

2. 議事に入るまでの経過

事務局より、定時を過ぎたので審議会に入る旨の発言の後、委員長に議長として議事進行を依頼。

議長は第64回(平成25年度第5回)番組審議会を開催する旨を述べた後、前委員が12月31日をもって辞任され、新委員として引き継ぎがある旨を述べた。また、本来なら本時点で新委員への委嘱状の交付と挨拶があるところ、委員はインフルエンザのため出席出来ないため次回に延期する旨を述べた。

次に、社長に開催に当たっての挨拶と放送事業者側の出席者の紹介を求めた。

社長は委員の出席に謝辞を述べた後、会社側より出席するディレクター、主事、および市広報課、顧問を紹介し、各々挨拶をした。

続いて議長は本日の出席状況の報告を事務局に求めた。

事務局は委員7名中現在4名が出席の旨を述べ、過半数を満たしており審議会が有効に成立する旨を報告した。

3. 議題

(1) 番組の審議

議長は、本年度第5回目の番組審議会を開催し、議事次第に従い議題の1番、番組紹介に移る旨を示した。本日の審議対象番組は「こころのキャッチボール」であり、議事次第の通り「番組内容の説明」と「テープによる番組紹介」を一括提起するよう事務局に求め、質疑応答は「番組内容の説明」と「テープ番組紹介」終了後に一括し

て受ける旨を委員に述べた。

〔ディレクターによる番組内容の説明〕

ディレクター

本日審議して頂くのは特番で、1月11日の12時から15時まで放送した防災特番「こころのキャッチボール」という番組。78.7時間連続放送というのを先日行ったが、その中のひとつの特番。

78.7時間放送については後でも説明するが、災害時の24時間体制に備える訓練も兼ねて試みたもの。テーマとして“防災とのコラボレーション”を挙げており、パーソナリティから企画を募集したところ、近藤栄さんが企画し放送したこの番組をお聞き頂く。

東北の大震災の復興活動のなかで“野球”がキーワードになっている活動がある。今回はそれをメインにして取り上げたため題名に「キャッチボール」という言葉を含むタイトルとした。全部で3時間の番組なので前半の30分間をお聞き頂く。レジュメ（企画書）に記した「気仙沼にバッティングセンターを設立する会」の方々と話している部分です。

〔カセットテープによる番組紹介〕（平成26年1月11日土曜日放送分）

〔番組に関する意見交換〕

議長

番組を聴いて戴いたが、これからご意見交換に入りたい。忌憚なきご質問やご意見を伺いたい。聴いて戴いて如何だったか。

この番組は78.7時間連続放送の一部か。

ディレクター

そうです。

委員

電車中での会話だったので聞き取りにくくもったいなかった。

ディレクター

仕事のご都合で移動時間とかぶってしまい、電波状況がよくなかった。今は聞きにくかったが実際のオンエアでは会話の中身もわかり、もう少し聞きやすかった。

議長

事務局の方に聞こえてきた評判はどうか。

ディレクター

この後ももう一つ防災特番もあり、阪神淡路大震災の日に近いこともあり全体を通してよく聞かれていたようで、これで更に防災意識が高まったという意見も聞いた。

「飲むヨーグルト」の話が出たが、会社内でも復興支援で共同購入して飲ませてもらったが、支援と意識しなくても売れるであろうと思われるほど美味しかった。アマゾンでも購入できるので是非お試しを。

委員

野球がキーワードだったが、西宮は甲子園球場があって野球というのはスポーツの中でも西宮にとっては最も身近なものだし文化にまでなりつつあるので、とてもいいテーマだと思った。

委員

78.7時間ということにすごく意義があるように思う。番組でも言っていたが、災害はたまたまいつどこで起こるか分からないので、一日一日を大切に最後まで仰っていたのが心に残った。

“風化させない”という事がキーワードとなるよりむしろ“次に起こる時にどうするか”という事が大切だと考えさせられた。

委員

西宮は市役所を通じて陸前高田市にボランティアに行っているし、個別に活動されている方の事も聞いているが、この番組のような身近なテーマでこんなつながりもあるのだなと思うと、自分も何か出来る事はないかと思った。パーソナリティの方が「私も絶対行ってバッティングセンターで打ちたい」と言ったのを聞いて、自分も行ってみたいと思った。

78.7時間放送の方はどうだったのか。実際にはずっと情報を流し続けることになると思うが。

ディレクター

3泊4日の放送で木曜日の昼から日曜日の夕方まで交代しながら訓練を兼ねてやってみた。うまく交代してやれたらよかったがせっかくやるならお祭りの要素も取り入れてやりたいと思ったため深夜に特番を組んで殆ど寝ずに進行したところもあった。これは今後考えなければならなかったが、いい自信にはなった。今まで台風の災害などで深夜誰かが残って情報を流すことはあったが台風の場合は大概一日でおさまるので、大規模な災害が起こった時に4人でどこまで対応出来るのかは未知だった。実際そういう事が起これば今回のような3泊4日どころでは済まないはずだが、78.7時間を乗り越えた事は自信になったといえるだろう。

委員

緊急告知ラジオを頂いていて、電源を入れていなくても告知シグナルが鳴ると聞いているが、このような時にどのように対応されるのか。78.7時間番組では長く番組をされていたが、緊急時には実際にはこんなにたくさん番組を入れられるわけではないと思うが。

ディレクター

78.7時間番組は企画当初は深夜に特番をやることよりも、誰かが交代で例えば深夜に1時間毎にニュースや交通情報、天気情報を読むといった形でもいいのではということだった。実際災害が起こったらそういうことになると思うが、スタッフは4人しかいないのでたくさんいらっしゃるパーソナリティにもご協力頂く事になるだろうという事を踏

まえ、いろいろな方々に声をかけて今回は番組をたくさん作ってやることになった。本来は1時間毎に情報を流すということになると思う。

委員

若い人はスマホなどで情報を集めているが、お年寄りには音から情報を得るのがいいだろう。

議長

78.7時間放送中にさくらFMが長時間生放送をやっているという事を何回告知したか。

ディレクター

結構告知した。始まる前には新聞にも掲載してもらった。特番はこれ以外のものも含めて13～14番組を組んだ。日中の通常の番組中でも「78.7時間放送中です」「現在何時間が経過しています」と告知していた。ツイッターやFacebookでもその時点の状況をいつも以上に報告し、みなさんによくわかるようにした。

議長

FM放送なので聞こえる範囲は限られているが、78.7時間続けて放送というのはかなり評判になっていたようだ。せっかくだから放送の中自体でもきちんとアピールしていくのが効果があるだろう。

委員

市政ニュースには載っていたか。

広報課

市政ニュースには載っていないが、市のFacebookやツイッターでは告知啓発をしたり新聞にも情報を流した。

委員

少しでもさくらFMがこんな事をやりますというのを宣伝して頂きたい。

委員

24時間テレビと比べたらこれほど放送したのだから。希望のヨーグルトを販売するか義援金を募るなどしたらどうか。

ディレクター

販売はうちでは出来ないが、放送の後でもヨーグルトの紹介はいろいろな番組で今でもしている。

委員

どこでどう取り寄せられる？

ディレクター

インターネットです。

委員

越木岩で呼びかけてみたい。

ディレクター

先方の連絡先を調べてまたご連絡します。

委員

公民館の文化祭などでも被災地の食べ物を紹介して販売しているように出来たらいい。ネットで注文するより目の前にあった方がいい。

ディレクター

西宮でもそのように出来るといいのですが。

(2) 15周年イヤー事業の報告について

議長

二つ目の議題の15周年イヤー事業の報告の78.7時間放送についてとつながっていますが。

ディレクター

1月9日木曜日12時15分スタートで、1月12日日曜日18時57分終了で行った。通常生番組に加えて一部通常の収録番組も入ったが、78時間42分間事故も起こらず無事乗り切れた。スタッフ4人だけでまわしていくなら特番を組まなくても進めていけたが、今回はたくさんのパーソナリティの方々にご協力頂いた。丁度開門神事があったので福男の抽選から走るところまで中継した。普段は昼間に番組をしているパーソナリティが深夜の特番ではくだけていたこともあった。

テーマに“防災”を掲げていたので、先程聞いて頂いた防災特番を土曜日の昼間に放送した。

議長

長時間放送のテーマは“防災”なのか？

ディレクター

大きなテーマとしては「防災とコラボレーション」だった。ただ、防災にだけ特化すると同じような番組ばかりになってしまうので、普段出来ないコラボレーションとして番組を越えてパーソナリティと一緒にやってみよう、何かとコラボレーションしてみよう、例えば東北のコミュニティFMさんと何かを一緒にやろう、などと工夫した。

議長

こういった事は何回もやるか。

ディレクター

大好評で有意義だったし、今まで深夜に番組をしていなかったのがパーソナリティも楽しんでいたので期待はされているようだ。お約束は出来ないが検討はしてみる。訓練を兼ねて78.7時間ではなくもう少し短い時間でもいいのではと個人的には思っている。

委員

うちの自治会では消火などの実演だけでなく災害が起こったらスタッフがどうやって集まるかなどという訓練も行っているが。スタッフさんだけでなく何かの時にはパーソナリティさんにもお願いしますという事前の通達などはどうか。

ディレクター

実際に起こった時誰がどうやって出てきて誰に何を願うかなど、具体的な事は今後の訓練に必要なかと思う。

顧問

今回、全部は聞けなかったがかなり真剣に聞かせてもらった。

今回の記録をきっちり作っておいてほしい。番組内容だけでなく技術的な事も含めてまとめて残しておいてほしい。生放送というのは面白い。戎さんの時の放送やライブに市長が登場した時など面白かった。一番放送の命で迫力があるのは“ライブ”。このような経験をしたのは貴重だろう。

深夜の番組は女性陣がいささか暴走気味だったような気がする。放送の経験上女性陣が集まって暴走を始めると歯止めが効かない傾向があるので少し惜しいなあと思うが、実験的にコミュニティ FM 局でこういう事があってもいいような気もするが。

ライブの情報は事前に流していたようで遠くからもメッセージがきていたようだ。情報を流すのにネットを使うには事前に情報を流し、出演者の名前や曲目など具体的にあげて検索でひっきりやすくしておく必要がある。検索システムを上手く活用するのが課題だろう。ホームページもそのように作るといい。

以前「告知が下手なのは」と言ったが、今回はわりと丁寧にやっていたように思う。地域性という事にかかわりなくいいネタがあればそれだけみんなは聞いてくれる。

深夜の番組は“防災”がテーマでありながら“コラボレーション”の方が前に出て絡み合い過ぎてやや脱線してしまった感があり残念。概ねよかったのではないかな。

議長

おっしゃる通り「防災」というより「復興」と言えただろう。

続けて「緊急告知ラジオ」についてご説明願います。

社長

10日にプレス発表をして、翌日以降新聞に掲載されてから先週1週間は随分反響があった。順調に売れている。本体消費税を入れて8,400円で、市に申請すれば4,000円の補助金が出る。今年度の枠は100人だが、それに漏れても来年度の枠で補助してもらえる。感度も非常にいいラジオです。

コンセントをつないでいたらラジオをつけていなくても緊急時には知らせてくれ、落ち着いたら地域の細やかな情報をさくらFMで聞いて頂く事が出来る。

1台売れたら収益も上がるので財政状況の改善にもなり、リスナーの獲得にもなると思うので力を入れていきたい。このラジオが市民の皆さんと近づけるものになり、ラジオに聞きなれてくれたらいいと思う。

議長

申請書を出して補助を受けるのは1人1台と決まっているのか。

社長

何台でもいけます。

委員

サイズはどれくらいか。

ディレクター

10cm×20cm くらいです。

委員

デザイン性も大事だと思う。緊急のものなので分かりやすくという事を優先させたデザインになったのだろうか。

委員

チラシはどのくらい配ったか。

社長

5,000部は刷った。あちこちで配り、今中央図書館で防災ブックフェアをしているのでそちらに400～500枚は持って行った。

委員

市からもお知らせのチラシが届いたが。

社長

市にも渡しており、市からも配られているように思う。

議長は委員にその他特にご意見がない旨を確認し、本日の審議会を終了し閉会する旨を述べ、社長に挨拶を要請した。

社長は審議会でご意見を頂いた事への謝意を述べ、閉会にあたって挨拶を行った。

事務局は次回の審議会は平成26年2月20日の午前10時00分に西宮市職員会館第2中会議室にてと決定し、審議番組は後日改めて連絡致す旨を伝えた。

議長は、午前11時37分に審議会閉会を宣した。

議事の経過を明確にするため、議事録を作成し、委員長及び出席委員の記名押印をする。

平成26年1月20日

西宮コミュニティ放送株式会社